

## 仰ぎたる光の中に古巢かな

山田真砂年

「俳壇」五月号「光の中に」より

メタセコイアなどがすっかり落葉した後に、高い所の幹と枝の股に〈古巢〉をよく見かける。春の季語「鳥の巢」の傍題として〈古巢〉がなかつたら私など、どれほどの興味が持てたかとも思う。〈古巢〉を季語にした先人の心の温かさを思う。考えて見れば其処には野鳥たちの産卵、抱卵から巢立ちまでの命の営みが命懸けで行われた聖なるところである。その期間は貯化から巢立ちまで概ね三週間にもなるという。さんさんと光を浴びている 〈古巢〉を仰いだ作者も〈光の中に〉と捉えたところに神々しいような感慨を抱かれたようだ。